

# 山鹿中学校便り「チャレンジ&エラー」

令和2年12月24日(木)

No.10 文責 藤島浩一

## 授業や行事で力を育み切磋琢磨で高めています

あっという間に12月に突入し、2学期も本日でおしまいです。新型コロナウイルス感染症対策により、学校行事等が制限される中でも子どもたちの活動は輝いていました。1・2年生の合唱コンクールや生徒会役員選挙、県学力学習状況調査等がありました。どれをとっても各学級での活動が力となり、合唱力を高めたり、学級での繋がりを強めたり、或いは学習の定着を高めたりしていました。当然、トラブルもあります。ぶつかったりもしました。でもその問題を解決していく力が行事等で育っていったのです。ことわざにもありますが「雨降って地固まる」とよく言われますが、まさにその通りだと思っています。今後、社会が求める資質・能力のひとつに「問題を解決していく力」が必要だと言われています。社会の縮図でもある「学校」の中で、教科学習はもとより行事や部活動等を通して、将来につながる「生きる力」を育てていきたいと考えています。これらの姿を踏まえ、今後、令和3年度の学校経営や教育課程を考え、生徒達や保護の皆様にもお伝えしていきたいと思っております。



テストを真剣に受けている様子

## 2学期の終業式において校内放送で2点お話をしました

2学期の終業式において、校内放送によるあいさつをしました。話の内容は、1点目が、前期修了時と違って、通知表が渡されないの、今後、何に注意し、心掛けるべきなのかを振り返ることが少ないかもしれない。しかし、自ら学習面や生活面を振り返り、冬休みにやるべきこと、新たな目標を決めて取り組むことが必要です。ということをお伝えしました。2点目には、素晴らしい姿として、合唱コンクールの姿を紹介しました。具体的には、ステージで発表している学級の姿や発表までの取組も素晴らしいのですが、発表をステージ下で聞いている姿が素晴らしいこと。全員が頭をあげ、誰一人、下を向いている人、動く人がなく、合唱を聞き入っている姿があったこと。その姿から友達の良い発表を聞こうとする姿勢。素晴らしいと感じ取っていかうとする姿勢を感じたことを話しました。つまり、その後ろ姿から聞こえない、見えない「今までの努力」や「発表までの苦悩」「つながり合っている絆」を受けとめて、認めていかうとする気持ちの表れであると思ったことをお伝えしました。終業式における今回の校内放送もしっかり聞くことができました。



合唱を聞き入る姿

## 各部活動等で、数多くの活躍がありました。



各部活動等での活躍が数多く見られましたので紹介します。中体連県・九州駅伝大会に出場しました。県大会では、女子の優勝と男子の4位という素晴らしい結果を残すことができました。また、九州大会に出場した女子が優勝は逃しましたが、見事、準優勝でした。弓道部が県新人戦大会(通信大会)で男女ペアで団体優勝と個人優勝という快挙を成し遂げました。また、女子は、山鹿Bが団体準優勝とこちらも素晴らしい結果でした。さらに1年女子個人戦でも準優勝に2人が同率で入賞しました。ラグビー部も県新人ラグビー大会が開催され、リーグ戦の部で2チームを撃破し優勝しました。熊日学生音楽コンクール弦楽器本選が熊本で開催され、山鹿中から2年生女子がバイオリンを演奏し、見事、優良賞を獲得しました。その他、3年生の5名が全国税の作文コンクールに出品し、多くの賞を受賞しました。人権ポスターや標語が市の文化ホール1階に、人権啓発につながる山中生の力展示されています。どうぞご覧ください。太鼓部が八千代座で12月6日に無観客で「ふるさと自慢祭り」に出演しました。新メンバーでの演奏も力強く素晴らしいことでした。吹奏楽部がアンサンブルコンサートに2組(木管金管八重奏、打楽器四重奏)が出場し、いずれの組も銀賞を獲得しました。その他、先週、山鹿市交流センターホールで、山鹿市保健所主催による山鹿エールプロジェクトが開催されました。参加してくれたのが、合唱部と吹奏楽部でした。2つの部の素晴らしい合唱や演奏で、医療従事者の方々にエールを送ることを目的として、新型コロナウイルス感染症防止策を講じつつ取り组まれました。スタッフの方からは、聴くことで心が安らぎ穏やかに、そして元気が湧いてくるのが自分でもわかります。とおっしゃっていました。映像は、編集後、1月末にYouTubeで配信される予定です。

